

構造改革特別区域計画

1 構造改革特別区域計画の作成主体の名称

福井県福井市

2 構造改革特別区域の名称

来てみて福井けいりん特区

3 構造改革特別区域の範囲

福井県福井市

4 構造改革特別区域の特性

福井市は、約1500年前この地に生を受けた継体天皇の治山治水事業によって、一面の沼地が農耕可能な豊かな平野に生まれ変わったといわれている。その後、文化の発達に伴って地勢的關係から北陸道の要衝として栄えるようになった。

中世には、市街地の南にある一乗谷に居を構えた朝倉氏が5代にわたり、越前の国主として広大な地域を支配した。当時の一乗谷は小京都とうたわれ栄華をきわめたといわれるが、その居城は天正元年(1573年)に焼失したままの姿を今日まで残して、日本中世史上極めて貴重な遺跡として、昭和46年7月、国の特別史跡に指定され、目下保存整備の事業が進められている。

また、市の中心部は室町時代には北の庄城と呼ばれ、街づくりの始まりは柴田勝家の城づくりが始まりといわれ、その後、丹羽長秀・堀秀正らがこの地の城主として任じられた。徳川家康の天下平定後は、その二男、結城秀康を68万石の藩主とした。幕末当時の藩主は名君の誉れ高い松平慶永(春嶽)公で、その治下から橋本左内・由利公正・橋曙覧・笠原白翁など幾多の人材を輩出した。

慶永公は産業振興事業として織物を取り入れ、これが織物王国福井の礎となった。明治22年に市政が敷かれ福井市となったが、当時の人口は39,863人、面積は4.43平方キロメートルであった。以来、鉄道の開通や織物産業等の興隆によって、福井県において政治、経済、文化の中心都市となり、隣接町村等の編入もあって現在は人口253,463人(平成16年4月1日現在)面積340.60平方キロメートルで、北陸における主要都市のひとつとなっている。

昭和20年7月の空襲、昭和23年6月の福井大地震と2度にわたって全市が壊滅し致命的な打撃を受け、さらに水害、風害と幾多の災害に見舞われたが、市民の不屈の復興への意欲により、これを乗り越え昭和43年には第23回福井国体の成功、また戦災復興土地区画事業の完成等、今日の「不死鳥のまち福井」を築き上げた。

公営競技のひとつである競輪は、戦後間もない昭和23年に地方財政への寄与と戦災都市復興及び自転車産業の振興を目的として自転車競技法が施行されたことにより、同年小倉競輪場で最初に開催され、その後全国各地で開催されるに至った。福井市も壊滅的な被害を受けた福井空襲と福井大地震からの復興を目的に昭和25年5月に福井競輪場を開設し、以来54年間に渡り健全な娯楽・レジャー施設として、多くの市民に「夢と興奮」を提供してきた。

この長い歴史の中で、これまで一般会計への繰出金は約250億円に達し、学校建設、道路整備、下水道整備事業等々といった社会資本整備及び文化会館、公民館、中央卸売市場、葬祭場等の公共施設整備の財源となり、地域住民の生活向上に貢献してきた。このように、競輪事業は地域にとって必要不可欠なものとなっており、今後も一般会計への繰出金を通して地域住民の生活向上に寄与していきたい。

しかし、長引く経済不況とライフスタイルや価値観等の変化に伴い、競輪の売上は平成4年度をピークに減少傾向を辿り、平成15年度にはピーク時の3分の1まで減少しており、競輪事業を取り巻く環境は一段と厳しさを増している。

こうした厳しい情勢を踏まえ、福井競輪場では平成14年度を「競輪事業再復興元年」と位置付け、競輪事業における経営基盤の強化、確立、更に、お客様本位の魅力ある競輪の実現を目指して、積極的な取り組みを行ってきた。

新番組制度になった平成14年度から全国各場で開催される特別競輪等の場外発売を積極的に実施し、「福井市営競輪場広告提出使用料条例」に基づくバンク広告収入等も含めた開催外収入の確保に努めると共に、従事員賃金の30%カットや、事務改善等による正職員の削減及び業務委託料の削減等による徹底した経費削減と効率化を推進してきた。さらに、レースで福井の選手が1着になったときに、当該選手がスタンドへのボール投げを行い景品と交換するサービスや、ケーブルテレビ・地元ラジオ局でのレースの実況中継、地元紙への開催告知広告をスポーツ欄にカラーで掲載する等、ファンへのサービスやPRにも力を入れてきた。

また、日本自転車普及協会が平成15年度に実施したサービス実態調査で全国の各競輪場と比較してハード・ソフトの両面において全体的に評価が低かったこと、併せて、平成16年8月に「ふるさとダービー福井」の開催を控えていたことから、高齢者に優しく、同時に若いカップルや家族連れが気軽に利用できる安全で明るく快適な施設環境の構築を目指し、中央コンコースの改修等施設の整備を実施し、「誰もが気軽に、手軽に楽しめる競輪」という魅力ある競輪事業の実現と安定的な収益金の確保及び経営基盤の安定化を図ってきた。

しかしながら、こうした経営努力にもかかわらず、本場開催の入場者及び売上の減少傾向に歯止めがかからないのが現状であり、いかにファン層を拡大し場内を活性化させるかが存続への課題となっている。よって、本特例を適用することにより入場料の無料化と新規ファン獲得のための事業を実施するものである。

5 構造改革特別区域計画の意義

長引く不況の中、競輪の売上は毎年減少を続けている。場外発売や電話投票といった販売経路の多角化などで売上増大を図ろうとしているが、全体の減少傾向にはなかなか歯止めがかからない。

売上主力のG・Gはファンの強いニーズに応える形で場外展開や情報提供といったものが充実されたこともあり、シェアも拡大傾向であったが近年は場間場外も頭打ちとなり、やはり減少傾向に転じている。

こうした総需要が拡大しない厳しい状況にあって本場の開催規模を維持したまま場間場外等を拡大すれば、下位格開催の収支は一段と厳しくなるとの懸念から、場間場外等の展開に一定の歯止めをかけようとする動きもあるが、これはファンの上位志向という市場の動向に逆行するものであり、ファンの競輪離れを一層加速させるおそれがある。

このような状況の中で特に問題となっているのは、福井競輪場での開催における入場者及び売上の減少である。その減少幅は近年特に大きく経営圧迫の要因となっている。

競輪事業における売上減少等の主な要因は、厳しい社会経済状況の悪化や、レジャー・産業の多様化などの外的要因だけではなく、電話投票会員数の増加や専用場外車券売場の拡大など、ファンの利便性をより追及した施策も一因と考えられる。さらに、本場の集客力の低下は競輪場そのものにファンをひきつけるだけの魅力がなくなっていることとサービスの低下がその大きな原因になっていることも否定できない。

また、ファンの高齢化が進み平日の入場者の多くが65歳以上の老年者で占められており、永続的に安定した来場者確保のためにも新規ファンの獲得、拡大を図ることは最優先の課題となっている。そこで、特定の開催日に入場料を無料化し、ファンへの感謝の意味も込めて場内でイベント等を実施することで競輪場への集客力を高め、競輪場入場者及び売上減少解決への突破口としたい。

6 構造改革特別区域計画の目標

本特例を適用することにより、以下の目標を掲げる。

競輪場のイメージアップ

本特例を適用することによる社会的なPR性を最大限に活用し、次のことを広く市民にアピールし競輪場のイメージアップを図る。

a. 看護師の常駐と警備員の巡回等により入場者の急病、ケガ等に素早く対応できることと施設のリニューアルと空間分煙の実施により、年齢や性別にかかわらず誰もが安心して快適に過ごせるレジャー施設となっていること。

b. 競輪事業が学校建設、道路整備、下水道事業等、社会資本整備及び文化

会館、公民館、中央卸売市場、葬祭場等公共施設整備のための財源を拠出し地域住民の生活向上に大きく貢献してきたこと。

ファン層の拡大と入場者の安定的確保

特定の開催日に入場料を無料化し、同時に多くの市民が参加できるイベント（朝市やフリーマーケット、ミニモーターショー、観光物産展、郷土芸能ステージ等）を実施することにより、多くの市民に競輪場に来てもらう。

また、新規ファン獲得のためのイベント（チアリーディングショー、ミニライブ、初心者教室等）を実施し、若者や女性など競輪になじみのなかった人にも競輪の楽しさ、面白さを体験してもらい、新規ファンを獲得しファン層の拡大を図る。

さらに、ファンサービスのためのイベント（花や洗剤等のプレゼント、レース予想会、抽選による競輪選手のサイン色紙等景品のプレゼント、トークショーや握手会といった競輪選手との交流等）を実施し、新規ファンにリピーターになってもらい固定ファンの増加を図り、安定した入場者の確保を目指す。

新たな交流拠点の創出

上記、の相乗効果により、福井競輪場を年齢や性別にかかわらず誰もが安心して快適に過ごせるレジャー施設として広く市民に認知してもらい、競輪場及びその周辺地域を福井市の新たな交流拠点として活性化する。

7 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

競輪場のイメージアップによる効果

競輪事業が学校建設、道路整備、下水道事業等、社会資本整備及び文化会館、公民館、中央卸売市場、葬祭場等公共施設整備のための財源を拠出することにより、市民生活の向上に大きく貢献してきたことを広く市民に知ってもらうことで、競輪事業の活性化が競輪ファンに夢と興奮を提供するだけではなく、地域の活性化にもつながっていると再認識され、さらに、看護・警備体制の充実、施設のリニューアルや空間分煙の実施をアピールすることで、年齢や性別にかかわらず誰もが安心して快適に過ごせる施設として、競輪場のイメージ刷新が図れる。

集客力アップ効果

多くの市民が参加できる数々のイベント、新規ファン獲得のための趣向を凝らしたイベント及びファンサービスのための各種イベントを、特定の開催日に入場料を無料化する本特例の実施とともに効果的に実施することで、競輪ファンの減少に歯止めをかけ、ファン層の拡大と固定ファンの増加により、ここ2～3年1,500人前後で推移している1日平均入場者を当面2,000人まで回復させることが見込まれる。

交流拠点としての地域の活性化

上記の競輪場のイメージアップ及び競輪ファンの拡大策等の効果によって、競輪事業を不死鳥のごとく甦らせると共に、構造改革特別区域において、交流人口の増加により周辺地域を巻き込んだ新たな交流拠点「福井けいりん場」が創出される。そこでは、幅広い年齢層のファンが競輪場内及びその周辺で余暇を過ごし、健全な娯楽“けいりん”を通して地域住民と盛んに交流することにより地域に活気をもたらし、飲食店をはじめとする商業施設の来店者及び売上の増加による経済的効果も期待できる。

さらに、競輪事業の活性化は教育施設や道路等の社会資本の整備という形で市民生活に還元され、市民に活力と潤いをもたらすことで、地域の活性化に資する。

8 特定事業の名称

1140 競輪場の入場料無料化事業

9 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業に関連する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

競輪場の集客力を高め新規ファンを獲得し、ファンサービスをするための下記イベントの実施。

多くの市民が参加できるイベント

- a 朝市
- b フリーマーケット
- c ミニモーターショー
- d 観光物産展
- e 郷土芸能ステージ

新規ファン獲得のためのイベント

- a チアリーダーショー
- b ミニライブ
- c 初心者教室

ファンサービスのためのイベント

- a 花、洗剤等のプレゼント
- b レース予想会
- c 抽選による景品（競輪選手のサイン色紙等）プレゼント
- d 競輪選手との交流（トークショー、握手会等）

別紙

1 特定事業の名称

1 1 4 0 競輪場の入場料無料化事業

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

福井市

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

構造改革特別区域計画の認定を受けた日

4 特定事業の内容

(1) 事業に関与する主体

福井市

(2) 事業が行われる区域

福井市

(3) 事業実施期間

構造改革特別区域計画の認定を受けた日から

(4) 特定事業の内容

福井競輪場においては、平成16年8月に開催された「ふるさとダービー福井」に向けて施設のリニューアルを実施し、従来の競輪場のイメージを一新する安全で明るく快適な環境が整ったが、競輪及び競輪場に興味のない人には全く知られていない。こうした現状を打破するために入場料を無料化すると共に、朝市やフリーマーケット等、地域住民はもとより多くの市民が競輪場に集えるような各種イベントを実施し、同時に新規ファン獲得のための初心者教室を開催し、若者や女性など競輪になじみのなかった人にも競輪の楽しさ、面白さを体験してもらい、ファン層の拡大を図ることにより地域の活性化に資する。

5 当該規制の特例措置の内容

福井市が、競輪施行者として福井競輪場（福井市明里町2番65号）において開催する競輪のうち、特定の開催日について、入場料を無料化する。なお、当該特定の開催日においては、地元紙への開催告知広告や市政広報及び場内お知らせ板、場内映像のテロップ、出走表のお知らせ欄等を使用した広報を行い周知を図ると共に、競輪場内の秩序の維持に支障を及ぼさないよう警備の充実など必要な手段を講じる。